

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900484		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 霞ヶ浦の里	ユニット名	たんぼぼ
所在地	〒300-0132 茨城県かすみがうら市男神356番地1		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900484-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年12月15日	評価機関 決済日	平成28年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設の前には畑が広がり、いつも棟内には太陽光が入り、明るい居住空間となっています。近くには森林があり、小鳥の鳴き声を聞く事ができます。施設内には花壇があり、利用者様とスタッフが協力して草花や野菜を自由に作り、楽しむ事ができます。収穫した新鮮な野菜をメニューに取り入れたり毎月1回程度、調理実習を企画し、和菓子、けんちん汁、餃子、チヂミ等、材料刻みから仕上げまで、スタッフと一緒に作り、皆で作る事や食べる事を楽しんでいます。又、隣接する保育園や特別養護老人ホームと交流があり、楽しみの一つとなっています。スタッフ一人ひとりが各利用者様のニーズに合った支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周辺は田園が多く閑静な環境となっており、隣接する同一法人の特別養護老人ホームや保育園とは、夏祭りやクリスマス会などの行事のほか、日頃から交流をしている。
たんぼぼユニットでは、昨年からは月1回利用者と職員で餃子やチヂミ、どら焼き、大福、ケーキなどを作る調理実習を企画し、利用者の残存機能を活かしながらかしこくが持てるように支援している。
職員は利用者が家で生活をしてきた時と同じようにあえて方言で話しかけたり、スキンシップをして利用者に寄り添うよう心がけている。
利用者の要望により、家族等と温泉旅行に行けるよう連絡調整をしたり、アロマが好きな利用者にはアロマを使うなどその都度希望に叶うよう支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、玄関に掲示しています。毎週月曜日の朝礼時に復唱し、実践につなげています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念と、事業所独自の理念を定め、玄関やスタッフルームに掲示している。 管理者と職員は、毎週月曜日の朝礼時に理念を唱和し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	かすみがうら市の行事や、又、ボランティアの方に施設の行事の時に来ていただき、交流を図っております。隣接する特養、保育園との交流もしています。	利用者は同一法人が運営する保育園の夏祭りや運動会に招待され、応援しながら地域住民と交流している。 毎月事業所独自の誕生会に小美玉市社会福祉協議会のボランティアが来訪し、ギター演奏や紙芝居が行われ、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、運営推進会議、在宅の方より情報、意見を聞き、地域の理解が得られるようにしています。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの状況や生活ぶりを説明し、意見を頂いたり、又、委員の方より、介護の仕方や感染症他、勉強したいことの希望を頂き、実践しています。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、民生委員、地域住民、隣接する保育園長で2ヶ月に1回開催している。 会議では入居者の状況や行事の報告を行うとともに、民生委員からの要望により刻み食やペースト食を準備して高齢者の食事介助法の学習会を行ったり、家族等の要望により車いすの移乗法を実践するなど、委員から出た意見や要望を会議の場で反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取り、事業所の実情を伝え、協力関係を築くよう、取り組んでいます。毎月、介護相談員の訪問を受け、意見を頂いています。	2ヶ月に1回、法人主催のグループホーム連絡会議に市担当者が参加しており、事業所の空き状況や事業所の取り組みなどを報告している。 市担当者とは電話で生活保護受給者が受けられるサービスの相談や、両下肢切断術を受けた利用者からの車いす支給の相談をするなど、日頃より協力関係を築いている。 介護相談員が月1回来訪し、利用者からの情報を職員に報告したり助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。資料等を掲示し、全職員で誘発する原因を取り除くよう、努めています。	管理者は身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成し、全職員が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいるが、マニュアルの中に言葉の拘束に関する記載がなく、内部研修も行なわれていない。 現在身体拘束の対象者はいないが、万が一必要になった場合に備え、身体拘束に関する説明書や同意書、経過観察記録、再検討記録を備えている。 玄関は夜間は防犯上施錠しているが、日中は施錠せず利用者が自由に出入りできるよう支援している。	言葉の拘束を含め、「身体拘束廃止に関するマニュアル」を見直し、全職員が理解して実践に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加し、常に利用者様の立場になる事を再確認すると共に、情報を共有し、意識の向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加や、パンフレットを見る等、知識を高めるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に文章及び口頭で分かり易く説明し、ご納得の上で契約を頂いています。解約の際も、今後について関係者とよく話し合い、不安のないよう、努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し、意見や要望を出し易い雰囲気作りに努めています。利用時に苦情受付について書かれた文章を渡し、説明しています。また、苦情意見箱も設置しています。面会時に家族の方と意見交換をし、介護への参考にしています。	玄関に「意見箱」を設置するほか、管理者と職員は利用者からは日常の会話の中で、家族等からは来訪時や電話で意見や要望を聴いている。家族等から「利用者の足腰が弱らないようにしてほしい」との意見を受けて職員会議で話し合い、手摺りを使って膝の屈伸運動をしたり、ベッド上で寝返りの運動などを行っている。無記名のアンケートを実施するなど、日頃言いにくい意見を汲みあげるまでには至っていない。	無記名のアンケートを実施するなどして、家族等から日頃言いにくい意見を汲みあげるよう取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、話し合いの場を設け、意見や提案をきき、反映しています。	管理者は月1回開催する職員会議やユニット会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けるとともに、日常業務の中でも気軽に意見や要望を言える関係づくりに努めている。職員からの要望で、入浴介助を同じ職員ばかりではなく公平に行えるように業務分担表を作成したり、夜勤者の排泄介助業務の負担軽減のため、下剤の投与を夜から朝に変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人に合わせた指導、助言をして、資質の向上を図り、意見が反映でき、働きやすい環境作りに努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員がマナー講習と上級救命講習を受講しています。又、全職員が段階に応じて学ぶ機会を与えられています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1回、他グループホームとの交流や研修会を行い、介護技術、資質の向上、他施設の方との意見交換を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容、傾聴、共感を忘れずに利用前に本人の思いを把握して、信頼関係を築いていくように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が何の援助を求めているのかを把握し、相談して、理解しています。話し易い雰囲気の中で家族の思いを気遣いながら、何の援助を求めているのか傾聴し、受け止めるように求めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を伺い、各種サービスの説明をして、必要としている支援の提案をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな些細な事でも話し合ったり、相談したり、共に支え合う関係を築いていくよう、努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を把握して、面会、外出、外泊、電話等、家族の絆を大切に支えていくよう、努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、電話等で家族の理解、協力を得て継続できるように支援しています。	職員は利用者の友人や知人、親戚が来訪した際にはお茶を出し、ゆっくり寛ぎながら話ができるよう支援したり、馴染みの人との電話の取り次ぎや手紙の投函の支援をしている。 利用者が馴染みの美容室や店での買い物、墓参りを希望する際は家族等の協力を得ているが、家族等の協力が得られない場合は、職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しています。お互いに助け合うように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや、亡くなった方の告別式への参列等、退所後のつながりを大切にしています。契約終了後も相談に応じたり、関係施設を紹介しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望を把握して、やれる事、やりたい事を本人の希望に添えるように努めています。困難な場合は、家族、スタッフで意見交換し、利用者様の立場で考え、支援しています。	職員は日常の会話や家族等から、利用者の希望や意向の把握に努めている。 意志疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草から読み取って職員で話し合い、利用者本位に検討している。 把握した内容は「個人ファイル」に記載するとともに「職員連絡ノート」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の面接や利用後の面会等で、家族が関わりのある方より情報収集し、把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の見守り観察を常に行い、毎日のアセスメントシートを個別に作成し、状態を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を重視し、自分らしい生活が送れるよう、棟会議を開き、各利用者様の状況について話し合っています。状況に応じてモニタリングを行い、カンファレンスを実施しています。	介護計画は月1回利用者や家族等の意見や要望を聞き、医師、職員の意見を取り入れて作成している。 長期計画とモニタリングを6ヶ月毎に実施している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した計画に見直し利用者、家族等に確認している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成し、心身の状況や行動を記録して介護計画を見直し、日常生活に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や買い物等、必要な支援は、柔軟に対応できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の機関、民生委員、ボランティア等、必要に応じて協力が得られています。地域消防署の協力により、避難訓練、ボランティアによる歌、踊り等への参加を行い、楽しんで頂けるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿って、かかりつけ医があれば適切な医療が受けられるよう対応しています。	利用者や家族等の希望するかかりつけ医への受診が可能となっており、家族等の付き添いを基本としているが、付き添いできない場合は職員が支援している。 職員は協力医療機関への受診や、2ヶ月に1回の協力眼科医の訪問診療を支援しており、受診結果は家族等にその日のうちに電話で報告するとともに、「個人ファイル」と「利用者申し送りノート」に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院、協力病院の看護師に相談し、適切な受診ができるように支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、まめに様子を見に行き、本人、家族、医療機関との情報交換や相談に努め、話し合いの上、対応しています。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、医師との連携を図り、話し合いの上、対応しています。	管理者は看取り介護が必要になった場合に備え、看取りに関する指針や同意書、看取り介護のガイドライン、基本的な実践内容、基本的な状態に応じた対応例などの詳細なマニュアルを備えている。 契約時に利用者や家族等に看取りができない状況にあることを説明しているが、同意を得るまでに至っていない。	利用者の状態が急変した場合に備え、契約時に看取りに関する利用者や家族等の要望を聴くとともに、事業所では看取りができない状況にあることを説明し、同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が上級救命講習を受講しています。急変時、事故発生時に対応できるようにしています。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練を年2回消防署立ち会いで行っています。毎月地震発生、火災を想定して避難訓練を実施しています。地域住民の方に働きかけ、協力体制を築いています。	避難訓練は隣接する同一法人特別養護老人ホームと共同で消防署立ち会いのもと年2回実施し、うち1回は夜間想定の実施しているほか、毎月地震などの災害を想定した避難訓練を実施しているが地域住民の協力は得られていない。 訓練後に反省点や課題を話し合い、記録に残して次回の訓練に活かしている。 災害に備えて飲料水や乾パンを備蓄しているが、物資は法人本部から調達される方針となっている。	事業所は3ユニットあり、非難訓練時には見守り等地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議で議題に掲げたり、事業所の行事に地域住民を招待するなど、事業所の構造を見学する機会をつくることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライドやプライバシーに配慮し、利用者様のペースに合わせた声掛け、傾聴をしています。個人情報の取り扱いには十分注意しています。	管理者と職員は、利用者一人ひとりの生活歴や性格を把握し、人格を尊重しながら尊厳を大切に言葉遣いや対応をしている。 トイレ誘導時や排泄の失敗の対応をする時などは、小声で声かけをするなど、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。 個人情報に関する書類は、事務室の机の引き出しに保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が分かるような話し方や、本人の思いや希望が叶えられる支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れをスタッフの都合で行動しないよう注意して、基本的に利用者様の望んでいるペースに合わせて、自由な生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせて、その人らしいおしゃれができるよう支援し、理容、美容は地域の出張サービスや本人の望む所を利用しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの機能を配慮し、食事の準備や配膳、後片付けは一緒に行っています。嫌いな物を代替食で提供し、体調に合わせて楽しく食事ができるようにしています。毎月一回程度、調理実習を計画し、スタッフと一緒に材料切りから仕上げまで行っています。	献立は隣接する同一法人の特別養護老人ホームの管理栄養士が立て、職員が調理している。利用者の嚥下力に合わせた食事を提供するほか、誕生会や行事には特別食を提供したり、外食を取り入れて食事が楽しめるよう支援している。利用者は職員と一緒に、自家菜園のトマトや胡瓜、茄子などを収穫したり、テーブル拭きや配膳、食器拭きなど、出来る範囲で役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を調理し、一人ひとりに合わせて提供しています。食事、水分量の記録をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行っています。できない人は介助を行い、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、個々に合わせたトイレの声掛け、誘導、介助をし、自立に向けた支援をしています。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。 失敗してしまった場合は、周囲の利用者に気付かれないようさりげなくトイレや浴室に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。 一人ひとりに合わせた排泄支援により、退院後に使用していた尿取りパッドが外れた利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意し、食物繊維の多い食材を取り入れています。日常生活の中でラジオ体操等、体を動かす働きかけをしています。又、排便チェックにて状態を把握しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、毎日実施しています。個々に合わせ、希望やタイミングをみて楽しめるよう、対応しています。	毎日の入浴が基本となっているが、利用者の体調や希望に合わせて入浴日や時間帯を変えることが可能となっている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけする職員や時間帯を変えて対応している。 利用者の皮膚への刺激を配慮して入浴剤は使用せず、身体には植物性の石鹸を水虫箇所には薬用石鹸をと使い分け、入浴後に保湿剤を塗布して乾燥を予防している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態や生活習慣、希望に合わせて、安心して気持ちよく安眠、休息できるよう、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一包毎に朝、昼、夕と色分けし、日付を記入しています。薬剤情報を確認し、服薬の支援と症状の変化を常に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技、趣味、興味を活かし、楽しみのある場面を作り、役割や生きがいを持てるように支援しています。合唱、かるた取り等を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、散歩に出かけています。ドライブ、外食、買い物、その他時節に合わせて外出の機会を設けています。年1回の日帰り旅行を行っています。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、事業所敷地内の「憩いの広場」にテーブルと椅子を配置してお茶を楽しむなど、利用者ができるだけ外気にふれることができるよう支援している。 年2回各ユニット持ち回りで、買い物や外食、花見、ドライブに出かけ、季節を感じたり気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、家族の了承の上、所持して頂いています。希望に応じて一緒に買い物をし、支払いをする等の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りや手紙のやり取りも自由にできるように支援しています。携帯電話を所持されている利用者様は、家族や親戚、友達と会話を楽しまれています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く明るい空間になっています。陽の光はカーテンで、テレビ等の音量は不快のないようは配慮しています。季節の花、作品や写真等で工夫しています。	居間兼食堂は天井が高く、天窓からの陽射しで明るく暖かい空間となっている。 テレビの脇にソファを配置し、利用者が自由に寛げるよう配慮するとともに、壁には行事の写真や利用者と職員で制作した貼り絵などを掲示し、家庭的な雰囲気となっている。 各トイレの足下に暖房を設置しているほか、浴室の脱衣所には利用者が腰掛けられる高さに、1畳分の畳スペースを設けて着脱時の安全を確保している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当たりも良く、窓越しに季節感を味わう事ができ、思い思いに過ごしています。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた馴染みの物を置く等、好みの物を活かし、居心地良く過ごせるようにしています。			居室にはエアコンやベッド、カーテン、整理箆、クローゼットが備え付けられている。 利用者は使い慣れた寝具や家族等の写真、ぬいぐるみ、折り紙作品など、思い思いの物品を自由に持ち込んで、居心地良く暮らせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、各所に手すりを設置しています。福祉用具も必要に応じて取り入れ、一人ひとりのできることを見極めて、自立した生活が安全に送れるように努めています。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 霞ヶ浦の里

作成日 平成28年5月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアに関するマニュアルの中に言葉の拘束に関する記載がなく、内部研修も行われていない。	言葉の拘束を含め、「身体拘束廃止に関するマニュアル」を見直し、全職員が理解して実践に取り組んでいく。	身体拘束に関する内部研修を棟会議等で行う。	28. 4月
2	10	ご家族等への無記名のアンケートを実施する等で、日頃言いにくい意見を汲み上げるまでには至っていない。	無記名のアンケートを実施し、ご家族等から日頃言いにくい意見を汲み上げるよう、取り組んでいく。	無記名のアンケートを作成し、ご家族へ送付する。	28. 5月
3	35	災害対策は、消防署立ち合いの訓練を年2回、避難訓練を毎月実施しているが、地域住民の協力は得られていない。	地域住民の理解・協力を得て、非常災害時の協力体制を築いていく。	運営推進会議等で、消防署立ち合いの訓練を議題に取り入れ、近隣住民・民生委員等が参加できる機会を作る。	28. 11月
4	33	契約時に利用者や家族等に看取りができない状況にある事を説明しているが、同意を得るまでには至っていない。	契約時に看取りに関する利用者やご家族等の要望を聴くと共に、当事業所では看取りができない状況にある事を説明し、同意を得る。	契約時に当事業所では看取りができない事を利用者やご家族等へ説明していく。	28. 4月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。